

バイオテック

について

世は、バイオテックの時代。
 かつて、コンピューターが、私達
 に大きな夢を手えてくれた
 ように、バイオテックも亦、夢
 と希望を手えてくれよう
 です。しかし、コンピュータと違
 う所は、バイオテックには何か
 恐ろしいものが潜んでいる
 ような気がすることです。
 多分、これはバイオテックが、
 あまりにも大きな未知の
 可能性を秘めているから
 なのかも知れません。
 バイテック(バイオ・テック/ロジー)

は、ハイテック(ハイ・テック/ロジー) 未来を指向した高度な技 術、先端的な技術の総称)の 一分野で、簡単にいえば、 生物自体や、その生物が持 つ機能を、工学的手法を取 り入れて、効率的に利用 する技術」という意味で、 使われていることが多いよ うです。

この「工学的手法を用いて、 生物を質的に変え、人間 にとって都合の良い、全く 新しい生物を作り出す」よ うとしています。

水産でも、アコヤガイによ る真珠の品質改善や ノリの新種開発等の 研究が進められていま す。

こうした中で、水産で直 ぐに利用でき、しかも有望 なものとして「性のコントロール があります。この技術は、 雄が欲しい時は雄だけ を、雌が欲しい時は、雌た けを選択的に、自由に生 産できるもので、魚だけ にできる、画期的な技術 として注目されていきます。

しかし、ニジマスやサクラマス などで成功しているだけ で、どんな魚でも出来る ということではありません。

バイオテックは、ここ五年程 前かう、良く使われるよう になりましたが、新しい学 内分野でもあり、二、三年 で成果が得られるという ものではなく、一〇年、二〇年

という長い期間が必要 のようです。 内水試でも、バイオテックの研 究に着手すべく、準備 を進めている所です。 ところで、バイオテックは良 いことばかりなのをしようか、 今までにない、全く新しい 生物が、自然界に出て行 った場合、どういうことにな るか、ということも十分 考えねばなりません。

また、人間に都合の良い種 類を、大量に作り出しても 現在の種々の体系が、変ら なければ、直ぐに以前と 同じ状態になり、次の新 しい種類を作らなければ ならぬ、ということになり

かねないからです。

